

3頁から続く

Step by Step

～一歩一歩～②

ある日の作業中「これ(製品)は全部〇〇日に納品するの?」と尋ねられたことがあります。それを聞き、作業の納品日を把握していたことに驚きました。その他にも「ここまで納品するの?」「これはロット(番号)同じ?」など、質問を通して、彼女が手元の作業だけでなく、作業の流れや状況を気にかけて働いていることを知り、長い働きの中で培ってきた働く力を感じさせられました。



川上裕美子さん

就労継続支援事業B型

川上裕美子さんは中学を卒業以来、働くことにチャレンジし、以降会社での就労経験も含め、働いてきた期間は27年になります。現在は、加古川はぐるまの家 就労継続支援事業B型 軽作業班で仕事をしています。

両親の誕生日のお祝いをしたこと、甥っ子や姪っ子も含めみんなで食事をしたこと等、彼女がここまで長く働いてこられたのも家族の支えがあつてこそ。それを彼女自身もきつと感じているのではないのでしょうか。

働いてお金を稼ぐ、それを自身や家族のために使う。当たり前のことのように見えて簡単ではない、生きていくために大切なその力が働くことを通して身に付き、楽しみや目的を見つげながら生活している彼女の姿は、はぐるまの仲間にとって働くお手本とも言えます。これから健康に気を付け、身に付けた力を大切にしながら過ごして欲しいと思っております。

(就業支援部 川西有加)

施設入所支援事業

西村公助さん



生活支援センターで暮らす、西村公助さん。センターでは、作業やレクリエーション活動に参加し、日々の暮らしを送っています。

公助さん一番の楽しみは、隔週の帰省です。平荘湖での散策や、自宅では母の料理に舌鼓を打ちながら、のんびりと過ごす時間を大切にしています。それだけではなく、母の体調を案じ洗濯物を取り入れたりなどのお手伝いも頑張っています。

そんな公助さんですが、コロナ禍では感染者数の増加を受けて、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が発令されるなどして外出自粛などもあり、楽しみにしていた帰省の機会は何度も変更や中止になりました。先の見えない状況に、当然ながら不安は募っていきますが、経験を積み重ねる中で、気持ちの折り合いの付け

方を学び、前向きに生きていく術を身に付けています。

第6波の煽りを受けた際には、今までの経験と日課であるテレビと新聞による情報収集から、帰省ができなくなることを予め想定しながら、日々の食事や、おやつ等を励みにして頑張っていました。また職員は公助さんの思いに傾聴しながら、それでも悲しい時には、母に電話をして声を聞くことで安心へと繋げています。そういった楽しみや、人との関わりを通じながら、次の帰省を目標に、前向きに生活を送ることができています。

色々な経験を糧に、日々成長して歩んでいく公助さんの姿は本当にたくましく感じ、そして私たちもその姿に学ぶことが多いです。

(生活支援センター 松山歩)

(2)生活支援部 生活支援センター

- ・障害者支援施設「生活支援センター」は施設入所支援事業(夜間活動・暮らし)と生活介護事業(昼間活動)を提供します。
- ・コロナ感染防止対策としてゾーン分けをしています。職員間の情報共有を図り、隙間のない役割分担をし、安全と安心を第一に利用者の望む生活支援に努めます。
- 【施設入所支援事業】(定員40名)
 - ・夜間活動(17時から翌朝9時まで)と昼間活動のメリハリを意識した安全で安心できる福祉サービスの提供に努めます。
 - ・一人ひとり異なる速さで重度・高齢化が進む中、介護支援技術を習得し、目

- ・個別支援計画を基に利用者の目標を明確にして必要な生活環境を提供します。
- 【生活介護事業】(定員65名中、入所利用者40名 通所利用者25名)
 - ・個別支援計画に基づき、施設入所支援事業利用者と在宅の重度障害者に生活の安定と生き甲斐のための創作活動、作業訓練、社会適応訓練や機能訓練等の昼間活動(9時～17時)を提供。コロナ禍のためゾーン分けして活動していますが、可能な限り豊かで楽しい地域生活の支援に努めます。
 - ・重度・高齢化が進む中、安全第一に安心して過ごせる場づくりに努めます。
 - ・「緩やかな働く場」(10時～15時)の充実と、希望する利用者全員に働く場を提供します。利用者が興味、関心の持てる作業種の開拓に努めます。
 - ・送迎サービスは引き続き運行します。安心してご利用いただけるように努めます。
- 【障害者・児短期入所事業(宿泊)】
 - ・家族の病气や冠婚葬祭、その他の理由で一時的に家庭生活ができない場合等に短期間の暮らしの場を提供します。
 - ・慣れない場所での生活を安全第一に安心して過ごして貰えるように努めます。
 - 【日中短期入所事業(日帰り)】
 - ・日中一時的に家庭生活ができない場合

- 等、日中の生活の場を提供します。
- ・慣れない場所での生活を安全第一に安心して過ごして貰えるように努めます。

- ・各事業を実施します。
- ・総務部体制の強化を目指し、ICTシステムの有効活用と働き方改革の推進。
- ・施設や設備、備品の維持管理をするため計画的に保守点検・修理を行い、安全に利用できる環境整備に努めます。

(3)総務部

3 法人活動の重点課題に関する活動の推進

- (1) 新型コロナウイルス感染症の収束は今だ見えません。感染防止対策に万全を尽くし、可能な限り当たり前の活動が推進できるように努めます。
- (2) 安定した事業運営をするためには、利用者希望や地域の人にわかりやすい情報発信と選ばれる福祉サービスの提供に努めます。
- (3) 加古川はぐるま福祉会(生活支援センター・加古川はぐるまの家)には地域の方にもご利用頂ける「福祉避難所」

- を併設しています。不測の事態に備えて加古川市や地域の方や社会福祉法人連絡協議会と連携して有効にご利用頂けるように準備を進めます。
- (4) 危機管理体制の確立と周知徹底、感染症対策、防災・防犯対策についてより一層意識の向上に努めます。
- (5) 駅前出張所「ふらっとステーション」は地域貢献事業としてより多くの人が気軽に相談利用できるように努めます。

4 サービス向上と稼働率の向上のための活動の推進

- (1) 法人内研修や個別支援の充実と人材確保と人材育成の推進
- (2) 各種関係団体の研修会(オンライン等も活用)の参加の推進
- (3) 自己研鑽のための研修の奨励
- (4) 広報誌、ホームページによる広報活動

- (5) 個人情報等の守秘義務の徹底、人権擁護差別解消、虐待防止、苦情解決の視点に立ち、適切な対応と相談支援の周知徹底強化

5 「ともに生きる社会」の構築に向けた啓発活動の推進

- (1) 後援会と連携を図り会報「はぐるま」の発行並びにホームページ上で公開し啓発活動を推進
- (2) 見学・研修の受け入れ、研修会等の講師派遣をします。
- (3) トライやるウィークや体験実習並びに

- 教育実習は可能な範囲で受け入れられます。
- (4) 山手中学校1年生全員の人権・福祉教育の推進と交流
- (5) 「障害者をもっと働ける社会に」の啓発活動と実現の推進